

フロン引取・破壊システム

(自動車業界による共通インフラ構築と普及方法)

総 日本自動車工業会

フロン引取・破壊システムの概要

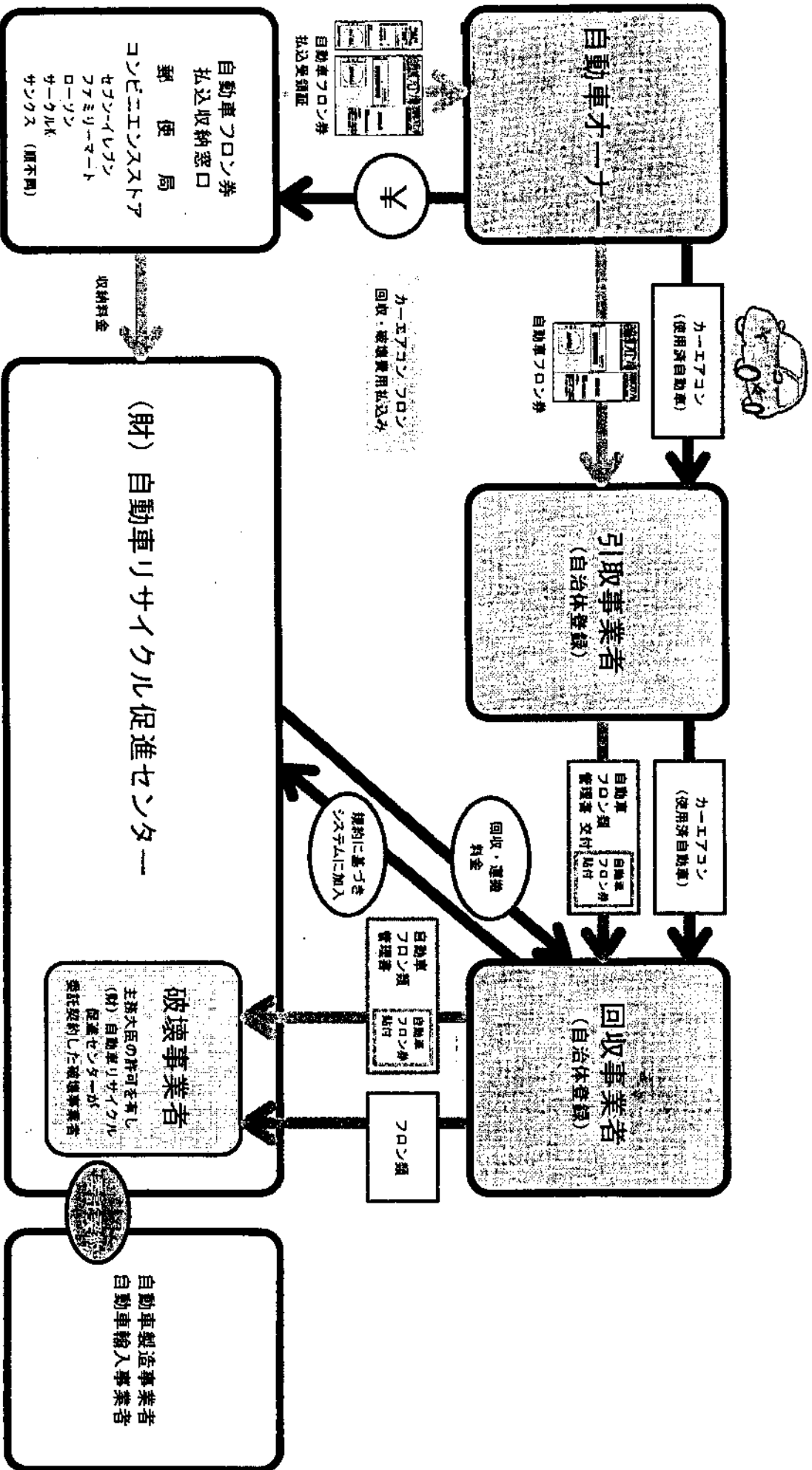
＜考え方＞

- ◎関係者の役割分担による、フロン回収・破壊の促進
 - ・オーナー⇒引取事業者⇒回収事業者⇒メーカー（委託破壊施設）
- ◎「フロン類管理書」による、回収フロンの物流管理
- ◎「自動車フロン券」による、料金の徴収
 - ・郵便局、コンビニ（5社）を窓口とする（全国5万3千ヶ所）
- ◎リサイクル促進センターによるフロン引取・破壊の円滑かつ効率的な推進
 - ・自動車メーカー、輸入事業者、計33社が業務委託

＜リサイクル促進センターの主な機能＞

- ◎回収事業者からのフロン引取・破壊業務
- ◎「自動車フロン券」の発行による、費用徴収業務
- ◎回収事業者への回収料金支払い業務
- ◎「フロン類管理書」の発給業務（関係団体のネットワークと連携）
- ◎関係事業者、オーナーへの理解促進活動業務

『自動車フロン引取・破壊システム』の流れ

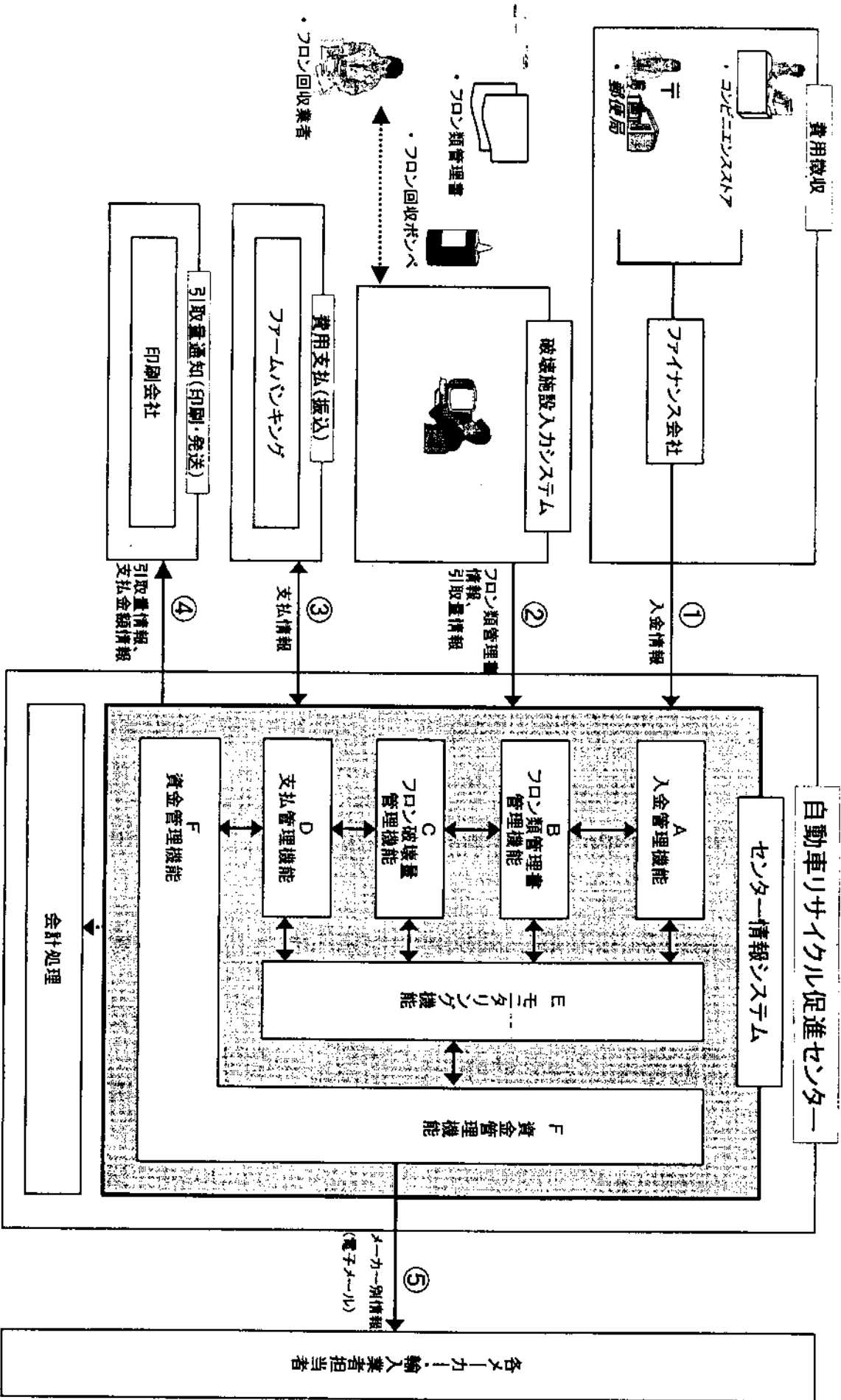


※ 各社の独自の判断による。

システム検討～運営体制

時期	体制	メンバー	検討内容
01/8～	・自工会 「フロン法対応T/F」 (プロジェクトチーム)	システム企画G (8名) 体制整備G (12名)	①システム基本設計 ②各種法制度との整合 ③回収量等破壊に係わる基礎調査
02/2～	・自工会 「フロン専任チーム」 (自工会内に常駐)	自動車メーカー各社より派遣 (11名)	①情報システムの開発・テスト ②関係者との交渉、契約締結 ③普及・広報(事業者説明、ユーザー理解)
02/9～	・リサイクル促進センター 「フロン事業部」 (新組織)	自動車メーカー派遣 (11名) ※フロン専任チームが移行 自工会事務局派遣 (3名)	システム運営・管理の実務

フロン法情報管理システム体系図



システム開発スケジュール

		01年8月~02年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
設計・開発	① 基本設計	↓										
	② 概要設計		↓									
	③ 詳細設計			↓								
	④ プログラム製造				↓							
テスト	⑤ 機能結合テスト				↓							
	⑥ 一連動作テスト					↓						
	⑦ 破壊施設操作研修						↓					
	⑧ インターフェース系テスト							↓				
運用	⑨ システム稼動 (事業者登録)							↓				
	⑩ システム本稼動							↓				

情報システムテスト内容

システムコーディネーターがテストメニューを作成し、システム開発事業者がテスト遂行

1. センター情報システム

機能	テスト内容	テスト規模
A 入金管理	フロン券代金の集計、預り金残高の管理、不正フロン券検出等	<システム稼働想定期間> ・2002年9月～2005年3月 <システム負荷> ・通常時の約2倍*のデータ処理能力を確認 ※73万件の入金、66万枚の管理書 分のデータ量
B フロン類管理書管理	フロン類管理書情報の記入漏れ、入力ミスチェック等	<情報入力項目> ・想定される全ての業務処理パターン (304ケース)を確認
C フロン引取量管理	引取フロン量の実績値管理等	
D 支払管理	各事業者への支払金額算出、フレームバンキングへの費用支払情報の受け渡し等	
E モニタリング	各サプシステムの統計情報算出(引取破壊量、入出金額等)	
F 資金管理	会計データの出力および各メーカー・輸入事業者への委託実績等の通知	

2. インターフェース

機能	テスト内容	データ量等
① 入金情報取込	ファイナンス会社からの入金情報の受信	33,000件の受信(1日平均想定入金件数の2倍)
② 破壊施設入力情報取込	フロン類管理書情報、引取量情報の受信	712通りの受信パターン (ポンペ種類、搬送ルート、着払い・元払い等の組み合わせ)
③ 支払情報送付	支払金額情報の送信、登録事業者口座確認情報の受信	1万件の送信テスト
④ 引取量回収実績、支払金額情報送付	印刷会社への引取量情報送信、および通知書の印刷	1万件の送信テスト
⑤ メーカー別実績情報送付	各メーカー・輸入事業者への委託実績送信	メーカー担当者(33社)に対するのメール到達確認